

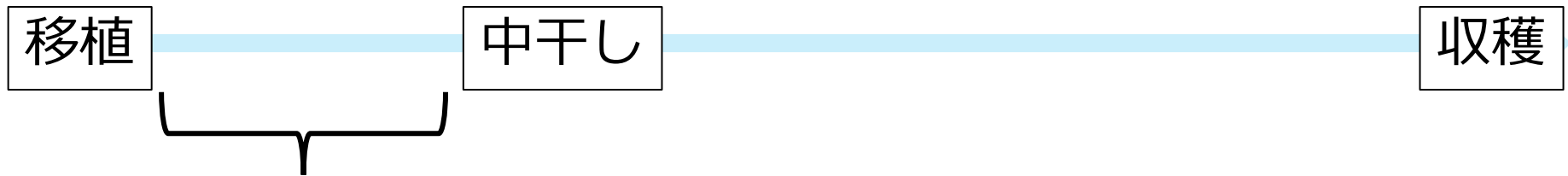
水田除草剤の効果的な使い方

令和7年3月13日
上越農業普及指導センター

内容

- ① 初中期一発除草剤の上手な使い方
- ② 中後期除草剤の上手な使い方
- ③ 初期除草剤の使いどころ
- ④ 稲刈り後防除のすすめ

移植後 1 か月間に発生する雑草が特に大事



移植後 1 か月間の雑草防除が特に大事

なぜなら

- ① 雑草発生のほとんどは移植後 1 か月以内に集中する（特に 2 ～ 3 週以内）
- ② **早く発生する雑草ほど、減収被害を起こす！！**
 - ⇒ 早く発生する雑草ほど大きくなるため
 - ⇒ 光合成の邪魔する、養分をいっぱい吸う、種をいっぱい作る

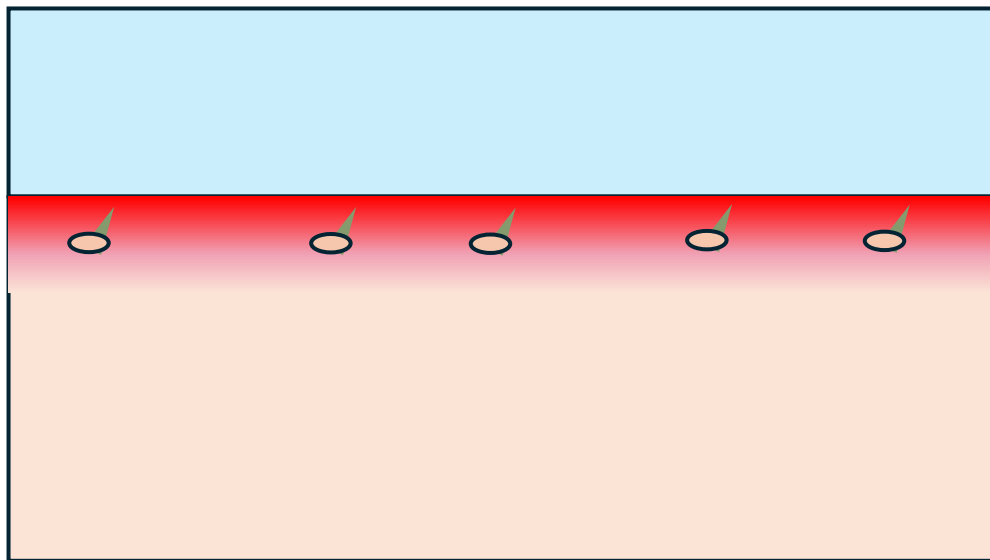
雑草害の多くは、栽培初期に発生した雑草によるもの
初中期一発除草剤をうまく使って、しっかり防除

内容

- ① 初中期一発除草剤の上手な使い方
- ② 中後期除草剤の上手な使い方
- ③ 初期除草剤の使いどころ
- ④ 稲刈り後防除のすすめ

初中期一発剤を効かせるには「処理層」が重要

一番重要なのは
除草剤処理層をしっかりと作らせること
(効果の源なので)

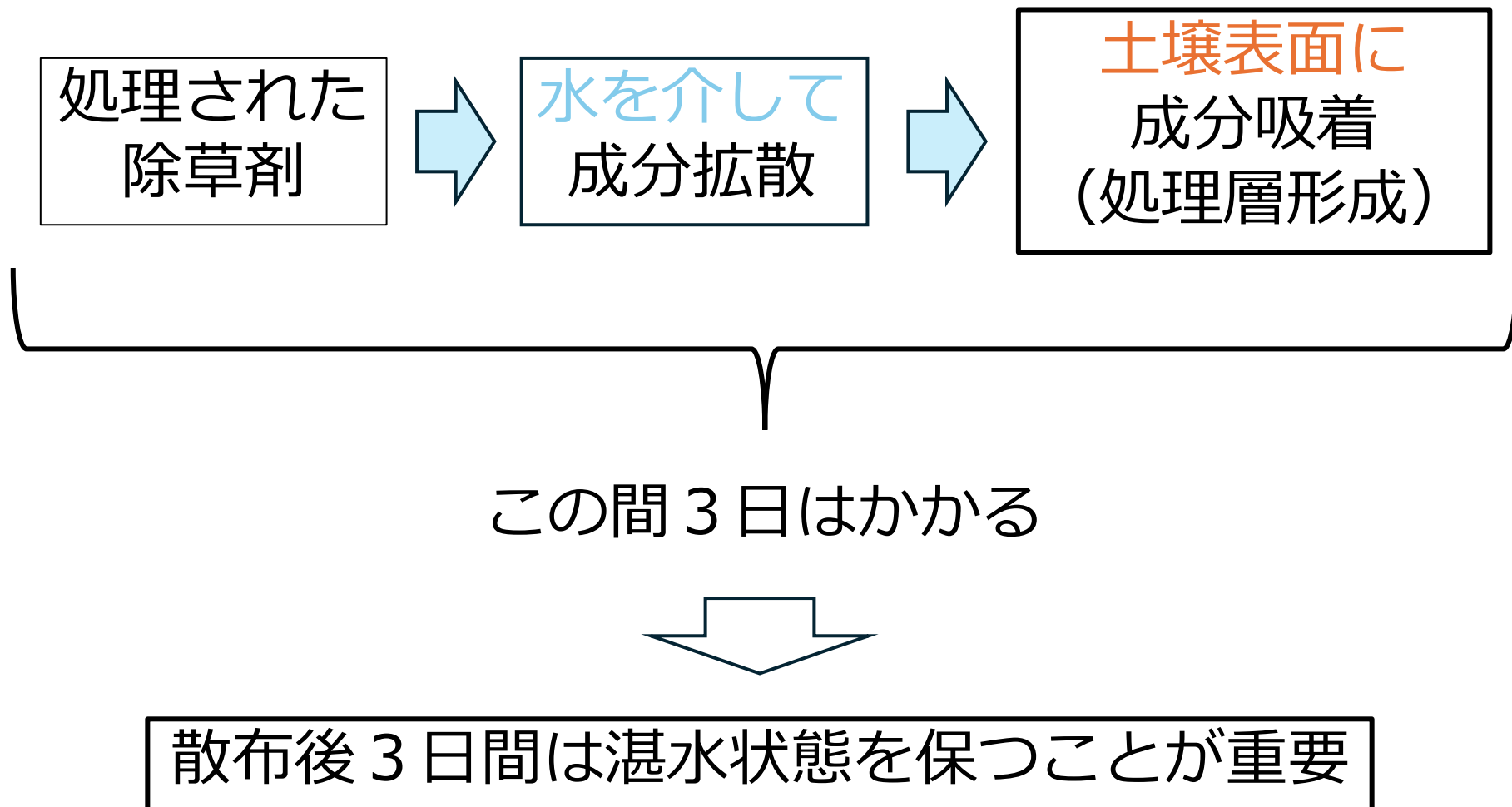


除草剤処理層

- 0.5~1cmくらい
- 除草剤の成分が吸着した土壌の層
- 処理層中の除草剤成分を 雑草が吸うことで効果が発現
- 雑草種子の発芽層 (0.5cm程) と一致
⇒多くの雑草種子は発芽後すぐに除草剤成分を吸い枯死

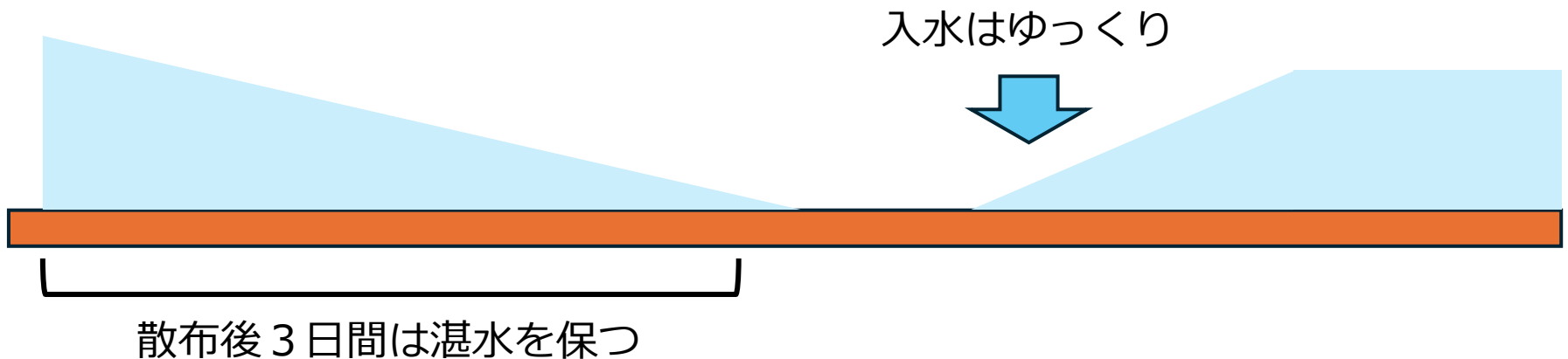
処理層の形成には散布後 3 日間の湛水が重要

除草剤成分の挙動



処理層を意識した水管理

- 散布後3日間は確実に湛水状態を保ち、処理層を形成させる
 - ・この3日が勝負！！この期間に田面を露出させることが一番よくない。
- 処理層形成後は2日程度であれば田面が露出しても除草効果には問題ない
 - ・ただし、低温や強風時には苗を守るため、田面を露出させない方がよい。
- 除草剤散布後7日間で、入水する場合は処理層を壊さないようにゆっくり、静かに入れる。また、散布後7日間は落水、かけ流ししない。



田面を均平にすることも非常に重要

田面の凸部は除草剤が効きにくく、雑草が発生しやすい

- 田面が露出しやすく、処理層が形成されにくい
- 水深が浅くなりやすく、紫外線の影響で除草剤成分が分解されやすい
- 田面露出が繰り返されて、空気が供給されることにより、酸素を好む雑草（特にヒエ）が大量に発生してくる



適切な水管理 + 田面を均平にすること

⇒この2つが、初中期一発剤の効果的に使うための要点です

内容

- ① 初中期一発除草剤の上手な使い方
- ② 中後期除草剤の上手な使い方**
- ③ 初期除草剤の使いどころ
- ④ 稲刈り後防除のすすめ

中後期除草剤の上手な使い方

中後期除草剤の使用で一番重要なのは「早め」に使うこと

なぜなら

- ・ 雑草は大きくなるにつれて、除草剤の効果がどんどん下がる
- ・ 最近気温も高く雑草はすぐ大きくなりやすい
- ・ 早いうちに出てきた雑草ほど減収被害を起こしやすい
⇒ 早めに確実に防除する

あとから雑草がまた出てくるかも…と思わず

登録の範囲内で「早め」に処理することが中後期除草剤で除草を成功させるコツです

内容

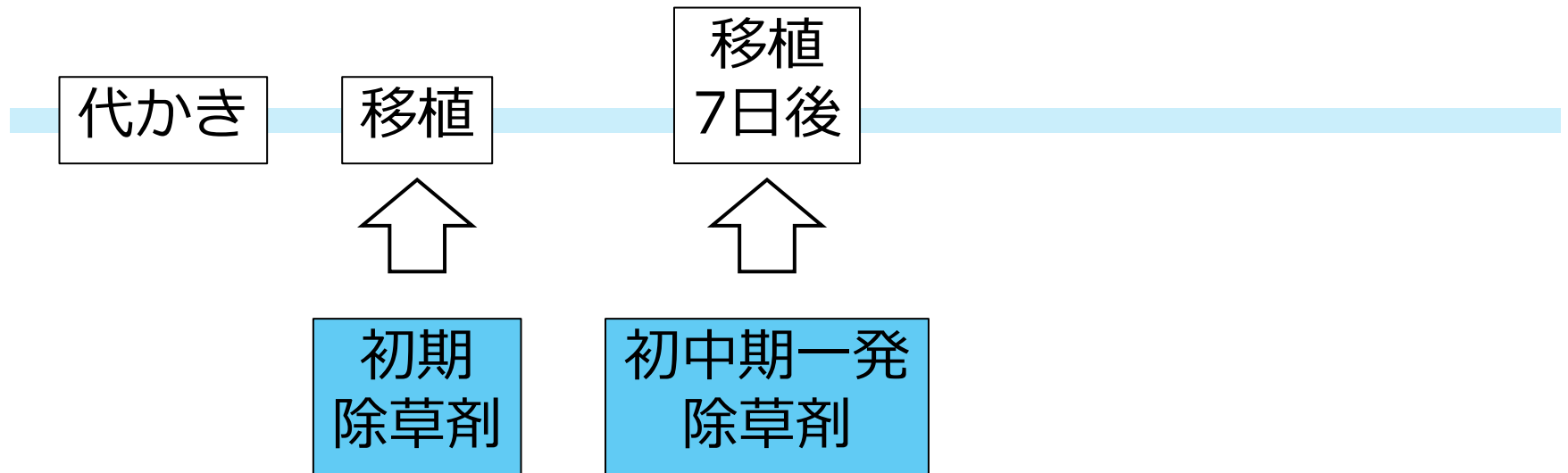
- ① 初中期一発除草剤の上手な使い方
- ② 中後期除草剤の上手な使い方
- ③ 初期除草剤の使いどころ**
- ④ 稲刈り後防除のすすめ

初期除草剤の使いどころ

- ① 雑草が多いことが分かっている場合
- ② 作業スケジュール上、代かき～移植まで期間が開いてしまう場合

初期除草剤の使いどころ

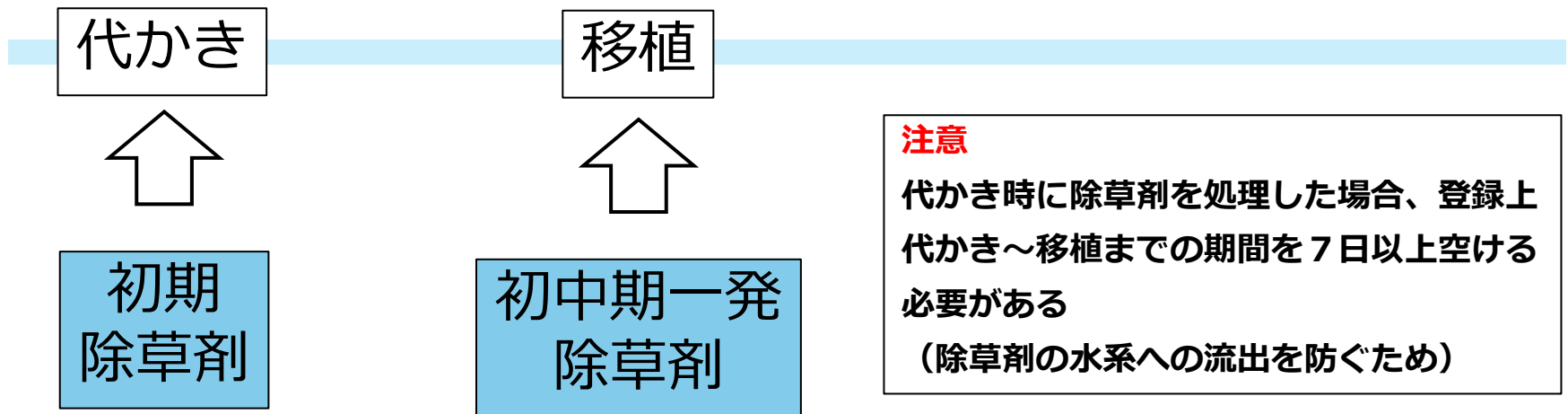
① 雑草が多いことが分かっている場合



雑草が多い条件では、初期除草剤（移植当日）と初中期一発剤（移植7日後）を
体系処理することでより安定した除草効果を得ることができます

初期除草剤の使いどころ

② 作業スケジュールから、代かき～移植まで期間が開いてしまう場合



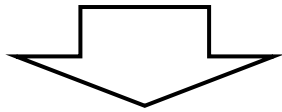
代かき時に初期除草剤を処理することで、
代かき～移植までの期間に雑草が発生し繁茂することを防ぐことができます

内容

- ① 初中期一発除草剤の上手な使い方
- ② 中後期除草剤の上手な使い方
- ③ 初期除草剤の使いどころ
- ④ 稲刈り後防除のすすめ**

稲刈り後防除のすすめ

雑草が残った田んぼでは
稲刈り後に雑草のヒコバエが出て
種子を形成する場合がある



**種子を落として、翌年以降に
雑草が多発する要因に**



稲刈り後にヒエのひこばえが繁茂、
種子を形成している

対策

稲刈り後、種子を形成する前に非選択性除草剤で枯らす

稲刈り後防除のすすめ

**オモダカ、クログワイが発生しているほ場では
稲刈り後防除を行うことをおすすめします**

- ・ オモダカ、クログワイは地下に繁殖体（塊茎）を作る。
- ・ オモダカは9月～11月、クログワイは8月～11月に塊茎をつくる。
- ・ **稲刈り後にも再生して、地下に塊茎を形成して増殖する。→ 翌年の多発**
(稲刈り後は、稲がなくなって光が当たりやすくなるため塊茎を作るには絶好の機会)

稲刈り後の防除方法（①、②のどちらかを実施してください）

- ① 稲刈り後、すぐに秋耕して塊茎を作れなくする
- ② 稲刈り後、少し再生してきたところを非選択性除草剤で防除して塊茎を作らせない

まとめ

① 初中期一発除草剤の上手な使い方

「適切な水管理」と「田面を均平にすること」が特に重要

② 中後期除草剤の上手な使い方

登録の範囲内で「早め」に使うことが防除成功のコツ

③ 初期除草剤の使いどころ

例年雑草の発生が多いほ場や、代かき～移植までの期間が開く場合

④ 稲刈り後防除のすすめ

収穫時に雑草が多く残っていた場合や、オモダカ・クログワイが発生した場合には実施した方がよい

付録 オモダカ、クログワイの防除

- 塊茎という繁殖体から出芽、発生する
- 出芽期間が非常に長い（クログワイでは収穫期まで続くことも）
理由
 - ・ 休眠の度合いが塊茎ごとに違う（大きい塊茎ほど休眠が深く、遅く出芽）
 - ・ 塊茎はオモダカでは地表下20cmの深度まで、クログワイでは地表下30cmの深度まで形成され、深いものほど発生が遅い
- 発生が長引くので、除草剤で一斉に防除することが難しい
- 大きいオモダカ、クログワイほど大量の塊茎を作る
- **一方で、中干し以後に発生または再生育する個体は水稻からの競合を受け、生育量が小さく塊茎形成量も著しく少ない**
⇒ 中干しまでに発生する個体を効果的な初中期一発剤や中後期剤によって確実に防除することが重要

< 防除体系例 >

